

様式第3号（第13条関係）

会議録

会議の名称	令和7年度第1回図書館協議会	
開催日時	令和7年6月3日（火）午前10時から11時30分まで	
開催場所	朝霞市立図書館本館 視聴覚室	
出席者及び欠席者の職・氏名	出席者 委員5名 有永克司会長、大野良雄委員、鈴木恭子委員、石川敬史委員、駒牧容子委員 事務局6名 増田図書館長、齊藤館長補佐、五十嵐専門員兼北朝霞分館長、早川庶務係長、柴沼図書館サービス係長、山口主査 欠席者 委員2名 小石川知治委員、伊藤孝人委員	
議題	議 題 議題（1）報告事項 ア 朝霞市立図書館サービス基本計画アンケート集計結果について 議題（2）協議事項 ア 朝霞市子ども読書活動推進計画アンケート（案）について 議題（3）その他	
会議資料	・令和7年度第1回朝霞市立図書館協議会 次第 ・図書館サービス基本計画策定に関する来館者アンケート調査結果報告書（資料1） ・令和6年度第1回市政モニターアンケート集計結果（資料2） ・第4次朝霞市子ども読書活動推進計画策定に伴うアンケート実施要領（案）（資料3） ・保護者の皆様への読書に関するアンケート（案）（資料4） ・小学生のみなさんへの読書に関するアンケート（案）（資料5） ・中学生のみなさんへの読書に関するアンケート（案）（資料6） ・高校生のみなさんへの読書に関するアンケート（案）（資料7） ・子ども市政モニターのみなさんへの読書に関するアンケート（案）（資料8） ・（仮称）第4次朝霞市立図書館サービス基本・子ども読書推進計画策定スケジュール（資料9）	
会議録の作成方針	☐ 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録	
	☒ 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録	
	☐ 要点記録	
	☐ 電磁的記録での保管（保存年限 年）	
	電磁的記録から文書に書き起こした場合の当該電磁的記録の保存期間	☒ 会議録の確認後消去 ☐ 会議録の確認後 か月
	会議録の確認方法 出席委員による確認	
傍聴者の数	0名	
その他の必要事項		

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

【会長、副会長選出】

互選により有永委員が会長に就任
会長推薦により大野委員が副会長に就任

【議事】

早川庶務係長
規則により、会長に議長をお願いします。

有永会長

図書館サービス基本計画アンケート集計結果について、事務局から説明をお願いします。

齊藤館長補佐

資料1「来館者アンケート調査結果」を報告します。

昨年12月1日から7日に、図書館の来館者を対象に実施しました。

総合満足度は、「満足」と「やや満足」を合わせて89.3%の方に満足をいただいています。

このアンケートは、毎年12月の1週間、定例で実施しており、総合満足度は、例年80%以上となっており、概ね図書館の活動について満足との結果になっています。

自由回答欄では、様々なご意見をいただいております、大事なことだと考えております。

続いて「市政モニターアンケート」は、計画の前に実施、前回は令和元年に行っています。

今回、年代的には、20代、40代、60代の方が多く、地区では三原地区の方が一番多く、15.2%でした。

一番大事な調査になると思いますが、設問4「1ヶ月にどれぐらい本を読みますか」では、電子図書も含め11冊以上は3.5%と少なく、1冊から2冊は読んでいる方が多い。前回の令和元年と比べ、月1回1冊から2冊が微増、それ以上読んでいる方は全体的に減っていることから、本を読む時間の総量自体が減少しているのではないかと推察しています。

設問7「知らないものはどうしていますか？」との質問では、「本を購入する」という方も多いですが、「インターネットで調べる」が圧倒的に多く、やはりネットの比重がかなり高くなっています。

問8で図書館に行ったことあると回答した人に対して来館頻度を伺っていますが、年に数回程度という方が1番多く、前回と変わって滞在する空間としての図書館の役割を一定数の方が感じていると推測する結果になっております。

次に問10、「初めて利用した」「利用していない」とか「したことあるが、今は利用していない」という方に理由を伺うと、3つの選択肢の中で1番多かったのが、「図書館に行く時間がない」と「必要な図書は自分で購入している」でした。前回調査の1番は「必要な本は自分で購入」で、2番目が「本を借りたいが返却するのが負担」だったので、少し変わってきたと感じています。

設問11で聞いた図書館の満足度は高く、その理由（設問12）の1番は、館内の過ごしやすさ、使いやすさなので、やはり、滞在型としての図書館が満足に繋がっているのではないかと感じています。逆に不満の1番の理由は、大きな差はないのですが、開館日数と開館時間が1番、2番目に自習のスペースが少ないでした。

問14「図書館で充実して欲しい資料」を見ていただくと、実用書が1番、他に小説とか専門書も必要という形ですが、一方で、絶版となった古い本の保存、郷土資料等行政資料の保存に対する期待もかなりあることが分かります。

問15、16の電子図書館サービスの設問で、利用したことがない方が9割、その理由の1番が「知らなかった」というもので、PRが課題として捉えています。

次に、今後の図書館運営に関心があるものを3ついただいておりますが、子どもの読書の推進のための支援が圧倒的に多く、これは前回の調査でも同じで、やはり子どもの読書への関心というのは世代を問わず非常に高く、また、そこに図書館へ期待しているという調査結果になっていま

す。

有永委員長

ただ今、事務局から説明がありましたが、ご意見やご質問はございますか。

大野委員

最初の資料1の問13の選択肢に「リサイクルフェアの利用」という項目がありますが、回答集計では「電子図書館の利用」という項目になっています。どちらが正しいのですか。

齊藤補佐

申し訳ありません、正しくは「電子図書館の利用」です。

リサイクルフェアはコロナ禍以降、実施しておらず、現在はリサイクル専用の棚に除籍した資料を並べ、配布しています。児童書のリサイクルは、除籍資料を市内の保育園、幼稚園、小学校に優先して配布し、昨年度の一般向け配布は、11月に参加したストリートテラスでの「森の図書館」イベントの中で、お話会の後に、児童書のリサイクル配布を行いました。今年度の児童書の一般向けリサイクルの方法は、検討中です。

石川委員

来館者アンケート、市政モニターアンケートで、気になる点があります。1点目が、回答して下さった方に、どのようにフィードバックをするのでしょうか。

2点目が、結果を見ると来館者アンケートは無回答が非常に多いですね。特に第2位、第3位になると2割から3割の方が無回答で、第1位でも無回答が結構、13%、14%近い。一方で市政モニターアンケートの無回答は少なく、図書館だけではなく、朝霞市に対してよくしていくという思いが強い、意識の高い方が回答しているのかなと思います。来館者アンケートと市政モニターアンケートは性質の違うものなので、この辺りの違いを次の図書館の施策に繋げていくことが重要だと思いました。

3点目が、市政モニターアンケートの自由記述欄で、非常に重要なことがいくつかあると思います。図書館に非常に詳しい方が答えられている、もっと言うと、国立国会図書館のデジタルサービスを利用されている方、ヘビーユーザーの方、非常に意識の高い方々が書いていると思われるので、ここに出された意見に、これからの図書館の立場、位置付けを高めていくチャンスがあるのではと感じており、これらに、どの様に対応をしていくのか気になったところです。

増田館長

市の意見・要望とか、図書館入り口にある投書箱とか、メールでのお問い合わせ等、個別のものに対しては回答させていただいていますが、大きめのアンケートの個別のご意見等に、個別にお答えするのは、現状ではちょっと難しく、できてないというところになります。

あと、ご指摘がありましたが、館内の利用者アンケートは、元々、利用いただいている方のアンケートになりますので、比較的、満足度が高い結果にはなると考えております。

市政モニターアンケートは、幅広い層からの回答になるので、先ほどご指摘がありましたように、自由記入欄でお褒めの言葉や満足の意見というのは、職員の方も励みにはなるのですが、どちらかというと苦言というか、注文のご意見の方が重要と言うように認識しております。

私の方で見ていて、結構要望が多いと思うのが自習スペース、学習スペースがもっと欲しいとか、カフェの併設といったおしゃれな図書館といった意見も急に増えてきたという感覚を持っています。ただ、物理的な部分とか、様々な制約もありますので、どのように対応していけるか、皆様のお知恵も借りながら考えていかなければいけないと思っています。

学習スペースは、本館では、本来の利用がない時には、展示集会室に長机を並べて提供しています。コロナ禍を契機に少し席数を減らしたところ、それはそれで使い勝手が良くなったようで、以前の数に増やすと、ちょっとギュウギュウ詰めになるといった弊害もありますので、本館については現在の席数で様子を見ている状況になります。

北朝霞分館は、館内に自習席を設けることができないので、出入り口付近に長机を設置してい

ます。薄暗いといった声もありますが、物理的に移動や増設は叶わない状況です。

図書館の自習スペースについては、いろいろなご意見があると思いますが、当館では、図書館の資料を使う方を優先して席を用意しております。

図書館の資料を使わず、自習するだけのスペースでいいのであれば、学校の試験シーズン等には、隣の中央公民館で空いている部屋を学習スペースとして解放しており、図書館と近隣の施設のバランスとかもあるのかなとは考えています。

今回、計画策定にあたり、自由記入欄でいただいた図書館に対する意見等にどれだけ取り組んでいけるか、実現性の有無も含めて検討していきたいとは考えております。

石川委員

回答者の方にどのようにアプローチするか、特に来館者アンケートの方は、とても重要だと思いますので、何か打つ手があればお願いします。

齊藤補佐

これまで、来館者アンケートの結果は計画公表のタイミングでしか公開しておりませんでしたので、今後、図書館ホームページ等何らかの形で公開できるよう検討したいと思います。

市政モニターアンケートの結果につきましては、市役所の市政情報課で情報公開を行っておりますので、こちらでご覧いただければと思います。

自習スペースについては、図書館の永遠の課題かと思います。人と情報を繋ぐのが図書館の役割で、自習もその一つとは思いますが、その辺りも利用者の皆さんにお伝えする努力も必要なのかなと思います。

今回のアンケートで、計画策定で重要になってくるのは、インターネット情報と図書館の役割と考えています。図書館は多様な情報を揃えており、そこの中から自分で必要なものを選択する場ですが、インターネットは、同じように自分で選択したようでも、あなたはこれを見たので次これがいでしょう、という風に選択させられていることもあります。計画では、そういった点も含めて考えていきたいと考えております。

有永委員長

来館者アンケートについて、石川委員が言われたように、結果やまとめを簡単な形でよいので、図書館ホームページで公表してもらいたいと思いました。

来館者アンケートの問11の参考実績が平成30年度なので、次から新しいものに差し替えていただきたい。それから、市政モニターアンケートなのですが、僕も石川委員と同じく、これだけの意見を書いてくださっていて興味深く思いました。また、毎年実施しているライブラリーミーティングの参加者募集のチラシに来館者アンケートを差し込めば情報が集まるかなと思いました。あるいは図書館ホームページなどを活用してもよいと思います。

あと市政モニターアンケートの方の12ページに「ユニークな特集企画があってもよい」という意見があります。例えば、大泉図書館では生活・暮らしとか地域、青少年、児童書コーナー、視聴覚資料コーナーでも特集展示をやっています。これのいいところは、本の表紙が見えるように展示している。図書館に来た人が借りる予定じゃなかったけど、面白そうだな、と手を出せるようにしているところがいいと思いました。

あと15ページ、4番目の「別の部屋のスペースも図書館として利用できたら」これは分館を利用されている方のご意見だと思います。これは切実な願いだと思います。分館は利用人口が多いので、他の部屋をちょっと利用できるようなことはできないのか、ということをおもいました。

それから16ページ「どのような資料が廃棄されるか、傾向を見てみたい」、これは廃棄本のことですね。廃棄予定の本をあらかじめ公開して必要な人にいきわたるようにすればいいかなと思いました。

それから19ページの4つ目の「東洋大学の朝霞キャンパスや立教大学の図書館とは連携されていますか」というご意見です。平成27年には朝霞市と東洋大学との連携協力に関する包括協定が結ばれていますが、大学の本をこちらで貸出や閲覧ができるのかということについて知りたい。あと、大学の文化祭は非常に盛んなので、連携して繋がりができてよいのかなと思います。

あと、19ページの「土日の閉館時間を19時にしてほしい。」やはり土日は利用者が多いと思うことだと思うのですが、ただ、実情は非常に限られた職員数で手一杯で難しいと思います。そこで現状は月に2日しかない休館日を増やして対応するのもひとつの手じゃないかと。埼玉県内の図書館の休館日は8、9割が月4日です。2日以下は少ない。なので、休館日を増やして余裕を持った職員体制にし、その代わり土日は時間を延ばすことを考えてもいいのでは、と思いました。

あと電子書籍の宣伝、ここのあちこちに知りませんでしたと書いてあります。やはりポスターを作るとか、ホームページとかでさらに宣伝しても良いかなと思いました。

齊藤補佐

大学図書館との連携は、本の貸し借りとかはできませんが、多くの大学図書館は地元の図書館長の紹介状があれば閲覧を受け入れしている館が多く、東洋大学に限らず、これまでも相談いただいて、紹介状をお出ししている例があります。

埼玉県は相互貸借制度が整っているので、一部の資料を除き、県内で互いに貸し借りをしており、その中に埼玉大学が入っています。制限付きながら、市立図書館まで資料を届けていただいて、館内で閲覧ができます。こうした資料提供に関する方法を調べたり、紹介するのもレファレンスで、その辺りも大きな課題なのかなと考えています。

本の展示は、朝霞でも各コーナーでも折々に展示もやっていますが、PRが足りないのが課題です。つい最近も、過去にいろいろな賞をとった本を集めて展示したところ、かなり反響がありました。

増田館長

休館日のご意見が出ましたが、朝霞の図書館も当初、月曜日を定休としていましたが、途中から月曜日を開館しているところがございます。電子書籍の宣伝が足りないとか館報が出ないとかのご意見がありますが、月曜日を開けることによって、やはり、開館業務や窓口が最優先になることから、ちょっと他の方が手薄になってしまうというのは、否めないところではございます。内部でも月曜休館の復活といった話は出ては来るのですが、サービスの低下を伴うものですので、なんとか今のこのままのやり方を続けていくためにはどうしたらいいかというところで、工夫し模索しながらやっているとございます。実際の最近の図書館はどこもそうなのですが、貸出数や利用人数というのは横ばい、もしくは微減傾向にはなっているのですね。ですから、滞在型、居場所として図書館に来ていただいて、滞在していただくという方は一定数おりますので、そういった需要とかもあるのかなとは考えております。月曜日を休館にして他の業務の方に回すとかのご意見もあるかと思うのですが、いろいろなご意見を、こちらの協議会でもお聞きしながら、どういう方向性が一番よいのか考えていきたいと思っています。

有永委員長

現状、土日を1時間延長するっていうのは難しいですね。

増田館長

シフト勤務で、平日も19時まで開館しておりますので、延長自体は可能です。ただ、限られた人数でやっておりますので、職員の負担は増えてきます。どこまで負荷を増やせるかと言うのは探りながらと言う形になるかと思います。

現状、月曜日も開館しているため、週休2日の関係もあり、職員全員が集まるのが週3日しかない状況です。その中で、全体での打ち合わせなどもままならない状況が続いてしまっています。職員の方も疲弊するのでそこがどこまで耐えられるかというところで、バランスを取りながら様子は見ております。

あとアンケートを見ていただいてもわかるとおり、21時、22時まで開いてれば仕事帰りにちょっと寄れるのに、といったご意見があるのもこちらでも重々承知しております。結局シフト勤務で運営する形になるので、人数の少ない時間帯が増えますので、その辺りを計算しながらということになってくるのではと思います。

齊藤補佐

図書館は貸本屋ではないので、開いていればいい、というものではないと思っています。読書活動の支援とか、多様な提案や、資料提供とか、図書館はインフラの1つだと思っていますが、政治的な判断とか、そういったものも出てくるので、朝霞としてベストの方向でやっていければなと思っています。

あと、子どもの読書に対する期待もアンケートから出ています。そこに人がどういう介在するかというのが非常に大事で、多くの大人の方々が図書館に期待を寄せていただいているというのも、子どもころの読書の体験とか、本に対するイメージがあるからこそ、今、離れていても、ちょっとした時間潰しに図書館に来ようかなって思っただけだと考えています。子ども時代の読書や、図書館との出会いが1回でもあるか無いかの大事さが、アンケートの中でも感じられると思うので、計画の中に反映できればと思います。

五十嵐分館長

先ほど分館での他の部屋の利用についての話題がありましたが、分館が入っている建物は産業文化センターといいまして、市民環境部の管轄で指定管理者制度により運営を行っています。確かに部屋が空いていることがあります。これは有料で時間貸しをしている施設なのです。私も、おはなし会をするときは部屋を借りるのですが、この場合、所管課に使用料の減免申請をして利用させてもらっており、指定管理者の収益にも関わってくることなので、一年を通して図書館が部屋を借りるというのは難しいと思います。自習をされたい方には図書館を出てすぐのところで4席用意してあります。節電の関係なのか、あまり電気がついていなくて暗い場合がありますが、私どもで小さな電気スタンドをお貸しするという部分で便宜を図らせていただいています。以上です。

駒牧委員

この市政モニターアンケートは5年に1度、市の方でやっているのですか。

齊藤補佐

はい。計画策定に合わせてお願いしています。

駒牧委員

興味深いご意見がたくさんあって、酷評ももちろんたくさんあるのですが。来館者アンケートでも自由記述欄はあるんですね。

齊藤補佐

そうですね。かなりの熱量を持って書いていただいています。

駒牧委員

いつも使ってらっしゃる方が、使い勝手の中での良いところやもちろん悪いところも書いてあるので、職員の皆さんは見ているんですね。

齊藤補佐

そうですね。毎年、職員全員が集計されたものを見えています。

駒牧委員

できることはやっているということですね。

齊藤補佐

応えられるもの、応えられないものもありますが、理想とか夢とか皆さんくださるので、そこ

に大きなヒントがあると考えています。実は、読みながら心が折れそうになることもあるのですが、必要なもの、できるものから応えて行けたらと考えています。来館者アンケートの自由記載欄については、後ほど提出いたします。申し訳ございませんでした。

増田館長

アンケートに関しては、我々の方も自由記述が重要で、私も全部目を通していただいて、今回市民アンケートの方にも、「前回要望を記入したが、現在も全く変化がないので記入しない。」という風に書かれてしまうことの無いよう、対応できることは極力対応するようには心がけております。あと、カフェの併設についてですが、カフェにはほど遠いのですが、コロナ禍を機に閉鎖していました飲食コーナーを、作年の夏休み前に再開を致しました。このように、ご意見を受けながら改善できることはすぐに対応はしているのですが、改めて回答という形をしておりませんので、周知とかいったことも含めて改善が必要であると考えております。なので、皆さんから言っても無駄だと思われないうに心がけていきたいと思います。

有永委員長

書かれている意見を紹介して、それに関する総括・回答を図書館ホームページ等に載せていただければと思います。

以上でよろしいでしょうか。特になければ次に議題2協議事項、ア 朝霞市子ども読書活動推進計画アンケート（案）について事務局より説明をお願いします。

齊藤補佐

資料の3から8まで、子ども読書推進計画に係るアンケートの実施を、今月から始める予定です。アンケートの案としてお示ししております。

今回新しく子ども市政モニターのアンケートを実施する予定です。子どもモニターは、小学校4年生から満18歳未満の市内在住在学在勤の方に登録いただいているもので、今、48名ほど登録があり、在学のお子さん以外の回答を得られる機会の一つと考えています。また、ネットで回答できるよう作って、すぐに動けるように調整しています。

資料の4、5、6、7で、4は保護者の方に対するアンケートです。アンケートは、前回と比較ができるように大きく変更しておりません。表現や設問の一部は、子ども読書推進計画委員の方からのご意見で、修正しております。何か修正した方が良い項目、表現があれば、この場でご意見いただき、急ぎ修正し、アンケートを開始したいと考えております。

有永委員長

ただいま事務局から説明がありましたが、何かご意見やご質問はありませんか。

それでは、中学・高校生なのですが、資料4の保護者のアンケートにあるように「読書に関することで図書館や学校に希望することはありますか？」という自由記述の設問を作っていたら、と思いました。

齊藤補佐

前回、学校で回答にあたって指導が必要になった時に学校側で指導しづらいところとかで、おそらくこの形に落ち着いたと前任から聞いてはいるのですが、やはり自由記述は難しいところとかもあるので、選択肢ということで、その他で書いてもらう形になっています。

有永委員長

やはり意見がある人は書くでしょうから。

増田館長

差し替えではなくて、追加でさらに書きたいことがあれば、みたいな形でならできると思います。現在の設問に追加という形で。

齊藤補佐

はい、それで対応をさせていただきたいと思います。

有永委員長

これはネットで回答できるのですか？

齊藤補佐

それについては保育園等、依頼先に意向をお尋ねしております。それに基づいてネットで回答するか、紙で回答するかを、依頼先に応じてやりたいと思っています。

石川委員

アンケート案を拝見して、社会が大きく変化している中、この内容で十分なのかな、と思いました。例えば外国にルーツのある子どもたちや、障害のある方、ディスレクシアの方たちに対する目配せや、子どもの読書だけではなくて大人の読書、つまり、市内全体で、読書推進計画をどう考えるのか。図書館サービス基本計画と子ども読書推進計画を一緒にするのか否かというところの判断が求められてくる中で、先を見て計画を立案していく時に、どういう展望をもってこのアンケートを作ったのか、というのが気になりました。前回計画時のアンケートと比較をすると、現状維持の、これまでの同じようなサービスを展開していくという風に見えてしまうのです。地域社会の変化への目配せが、議長がおっしゃったような自由記述欄があるかどうかということも含めて必要なのではないか、漠然としているのですが、ちょっと思ったところです。

増田館長

計画については資料9の方でまたお話しするかと思うのですが、現在、2つに分かれていた計画を一本化するという方向で考えております。方法としては、今までそれぞれで策定年度もちょっとズレていたのを、別々にあったものを単純に合体させるというものと、あとはサービス基本計画の中で子ども読書推進を厚めにするものと、どちらかで考えており、いずれにしてもご指摘のとおり、社会情勢の変化も見据えて計画に盛り込んでいかなければいけないと考えております。アンケートの内容で、自由記入欄の追加ということも含め、逆にお子さんですと、こちらの方から聞いてあげないと出てこない答えもあると思います。子ども読書推進連絡会の会議もございますので、そういった観点も盛り込んでいければと考えております。

石川委員

すぐアンケートに盛り込むことは難しいと思うのですが、そういう視野を持った方がよいと思いました。今後、検討を行うにあたって、どのようにアンケートの結果を見ていくのか、というところが重要なと思ったところです。

鈴木委員

小学校、中学校、高校のそれぞれの中に読書通帳を使っていますか、という項目があるのですが、これは前回のアンケートの時にもあったのでしょうか。この問について、読書通帳を知らないと回答した人に、読書通帳とはどういうものなのか、この問いを通して「あ、こういうのがあるのだな」と知らせる工夫があると良いのではないかなと思いました。

齊藤補佐

前回でも読書通帳について質問させていただいています。読書通帳を知らない方が多いかなとは思っていますので、どういうものなのかを説明できるように対応を考えていきたいと思っています。

有永委員長

読書通帳関連なのですが、自分の貸出履歴を自分で残せるし削除もできる、そういう図書館システムがあるようです。今後はそのように変わっていくのかなとも思います。

他はよろしいでしょうか。

では（３）その他をお願いいたします。

齊藤補佐

それでは資料９をご覧ください。今後の計画策定のスケジュールで、昨年度お示ししたのから、実情に合わせまして変更がございました。それから協議会開催回数に誤りがありまして、資料では５回となっておりますが、正しくは４回でございます。申し訳ございません。

また、キーパーソンミーティングを７月から９月に開催予定で、この一環としてライブラリーミーティングを７月１２日に開催する予定です。今回は、戦時中、都立日比谷図書館が志木市に一時資料を疎開させた、というドキュメンタリー映画「疎開した４０万冊の図書」を上映し、その後ミーティングを開く予定です。市の広報に掲載し、少しでもいろいろな方に来ていただき、ご意見をいただきたいと考えております。

増田館長

元々利用者懇談会という名でしたが、それだと言葉が堅いので集まりづらいというところで言葉を横にしてライブラリーミーティングにしたりしておりますが、なかなか、やはり人が集まっていだけないというのがございますので、今回は映画を見ながら、気軽に図書館のことについて、語り合っていたきたいというところでこういった形を考えております。

齊藤補佐

今後のスケジュールについてはお示しさせていただいたとおりです。協議会の開催については１回多くなってしまっているので、調整、修正したものを後日お届けさせていただければと思います。

有永委員長

特に他にないようであれば、全て承認することといたします。皆様のご協力に感謝を申し上げ、議事を終了させていただきます。

早川係長

第２回協議会につきましては７月を予定しております。正確な日程は決まり次第またご連絡させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。それでは以上をもちまして、令和７年度第１回図書館協議会を終了させていただきます。どうもありがとうございました。